

第16回 全国障害者スポーツ大会

2016希望郷いわて大会

大会報告書

一般社団法人 札幌市障がい者スポーツ協会

はじめに

【全国障害者スポーツ大会の意義と歩み】

全国障害者スポーツ大会は、障がいのある選手が競技等を通じ、スポーツの楽しさを体験するとともに、国民の障害に対する理解を深め、障がいの社会参加の推進に寄与することを目的に開催される国内最大の障がい者スポーツの祭典です。

全国障害者スポーツ大会は、平成13年に、それまで別々に開催されていた「全国身体障害者スポーツ大会」と「全国的障害者スポーツ大会」が統合され、宮城県で第1回大会が開催されました。以降、オリンピック終了後に開催されるパラリンピックと同様に、毎年国民体育大会終了後に開催されています。

【「希望郷いわて大会」の概要】

目的：第16回全国障害者スポーツ大会は、東日本大震災津波からの復興の取組を進めている岩手県で開催された障がい者スポーツの祭典で、「復興の力となる大会」、「可能性にチャレンジし、だれもが輝く大会」、「共に支え合う社会を目指す大会」を基本方針としています。

大会マスコット：「わんこきょうだい」

大会日程：平成28年10月22日(土)～24日(月)

会場地：盛岡市等5市1町

参加者：選手 約3,500人、役員 約2,000人
合計 約5,500人

実施競技：個人競技6種目、団体競技7種目、
オープン競技4種目

【札幌選手団の活躍】

選手団の構成：選手 個人競技33人 団体競技21人、役員35人、
合計89人

成績：メダル数は、33個(金メダル12個、銀メダル12個、銅メダル9個)と、過去最高の成績を収めた前回大会には及ばなかったが、水泳競技で4件の大会新記録を樹立するなど健闘しました。

【謝辞】

選手団を受け入れて頂いた地元県職員やサポートボランティアの方々はもちろん、選手役員を快く送り出して頂いた家族や学校・職場の皆様や、多忙な中、日頃の練習や事前の強化練習、大会期間中のサポートにご尽力頂いた監督やコーチなど、多くの関係者の皆様から感謝申し上げます。

とりわけ、苦しい練習を積まれた上で、国内最大の障がい者スポーツの祭典に臨み、様々な障がいのある方が札幌選手団として心を一つにして互いに励まし合いながら、日頃の練習の成果を発揮するとともに、自らの可能性にチャレンジし、多くの感動を与えてくれた選手の皆様に心から敬意を表します。

「広げよう 感動。
伝えよう 感謝。」



選手団の主な日程

- 10月20日（木）結団式・出発
団体競技の選手団は21日（金）に出発
- 10月21日（金）各会場にて公式練習
- 10月22日（土）開会式・大会1日目
- 10月23日（日）大会2日目
- 10月24日（月）大会3日目・閉会式
- 10月25日（火）帰札・解団式



競技別のメダル獲得数

個人競技

陸上			水泳			アーチェリー			卓球			フライングディスク			ボウリング		
金	銀	銅	金	銀	銅	金	銀	銅	金	銀	銅	金	銀	銅	金	銀	銅
4	2	7	5	3	1	0	0	0	2	3	1	1	2	0	0	1	0

団体競技

サッカー	バレーボール
銀	1回戦敗退

札幌市選手団は、個人、団体合わせて金12個、銀12個、銅9個の合計33個のメダルを獲得しました。なお、競技別の選手の記録は、スポーツ協会だより第39号をご覧ください。

団結式

会場：札幌エルプラザ



長谷川障がい保健福祉担当局長から「美しい山々、壮大な海の景観など、豊かな自然にあふれ、歴史と文化が息づく岩手の地で、スポーツを存分に楽しみ、ともに感動を分かち合った仲間との深い絆が結ばれる、すばらしい大会となりますように願っています。」と挨拶がありました。



選手宣誓
フライングディスクの古川選手(左)、水泳の山崎選手(右)



浅香団長への団旗の授与



出発～到着まで

札幌駅 (JR特急スーパー北斗10号) →
新函館北斗駅 [乗換] (JR新幹線はやぶさ26号) →盛岡駅



全国大会でJRと新幹線を利用した鉄道の旅は38年振ります。



歓迎セレモニー

サポートボランティアの方が盛岡駅のホームまでお出迎えしてくれました。



盛岡駅で、岩手県職員やサポートボランティアの皆さんとご対面。「よろしくお願いします。」

公式練習

10月21日、各競技場で公式練習が行われ、翌日からの本番に向けて、各選手が最終調整をしました。



開会式

平成28年10月22日(土)

会場：北上総合運動公園北上陸上競技場(北上市)



皇太子殿下から「この大会が、東日本大震災からの復興の力となり、その先の明るい未来への架け橋となる事を願い、被災地で初めて開催されることは、大変意義深いことです。」とお言葉がありました。

10月22日、皇太子殿下のご臨席の下、北上総合運動公園北上陸上競技場で、開会式が開催されました。全国からの選手団、大会関係者、観覧者、約1万8千人が参集し、盛大に行われました。



札幌市選手団は、旗手の花田選手を先頭にサップロスミールの小旗を観客席に向けて振りながら行進しました。



各競技の紹介

陸上

track and field

会場：北上総合運動公園北上陸上競技場（北上市）



水泳

swim

会場：盛岡市立総合プール（盛岡市）



卓球

table tennis

会場：奥州市総合体育館（奥州市）



アーチェリー

archery

会場：雫石町総合運動公園陸上競技場（雫石町）



ボウリング

bowling

会場:ビッグハウススーパーレーン (盛岡市)



フライングディスク

flying disc

会場:岩手県営運動公園陸上競技場 (盛岡市)



サッカー

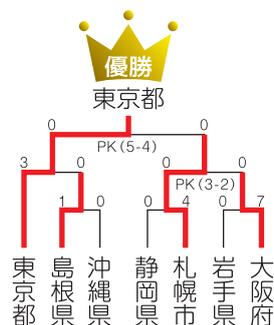
football

会場：いわぎんスタジアム（盛岡南公園球技場）（盛岡市）



札幌市準優勝!

1回戦の静岡県との戦いは、前半に効果的に得点を重ね、4対0で快勝。準決勝の大阪府との戦いは、0対0のままPK戦となり、3対2で勝利しました。決勝戦では、昨年優勝の東京都を相手に、延長戦でも決着がつかず、またも0対0でPK戦となりましたが、4対5で惜しくも敗れ、準優勝となりました。



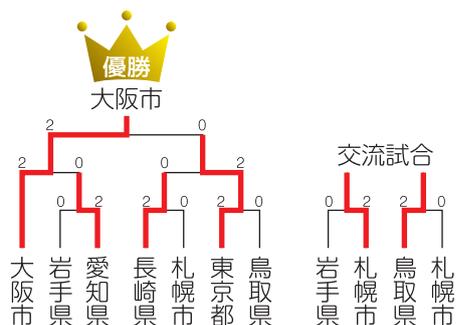
バレー

volleyball

会場：花巻市総合体育館（花巻市）

惜しくも1回戦敗退

1回戦の長崎県との戦いは、ブロックやレシーブで粘りましたが、セットカウント0対2で敗れ、2回戦に進むことができませんでした。その後行われた交流戦では、岩手県に2対0で勝利しましたが、鳥取県には0対2で敗れました。



いろいろ...



閉会式

平成28年10月24日(月)

会場：北上総合運動公園北上陸上競技場(北上市)

10月24日、高円宮妃殿下と絢子女王殿下のご臨席の下、「2016希望郷いわて大会」の閉会式が行われ、「広げよう 感動。伝えよう 感謝。」をスローガンとしたスポーツの祭典が終了しました。



高円宮妃殿下から「今後とも積極的にスポーツに楽しみ、自己の身体、精神を鍛え、より高い目標に向かって、充実した毎日を送られることを期待しております。」とお言葉がありました。



鈴木大地スポーツ庁長官から「障がいに対する理解を深め、障がい者の社会参加を推進するという大会の目的もかなえることができました。」との挨拶がありました。



東日本大震災の復興支援活動に取り組んでいるAKB48が、大会のファイナルステージを盛り上げました。

県職員、サポートボランティアとのお別れ

大会期間中、選手団を支えてくれた県職員、サポートボランティアの皆さんとのお別れは、とても名残惜しいものでした。



解団式

会場：札幌エルプラザ



長谷川障がい保健福祉担当局長から「大会の成績も大事なことではありますが、地元の方々の心温まる歓迎を受け、全国から集まった仲間たちと過ごした時間はかけがえのないものでした。」と挨拶がありました。



松原副団長から「札幌市選手団の成績は金メダル12個、銀メダル12個、銅メダル9個となりました。選手全員が札幌市の代表として、誇りを持って精一杯プレーしました。」と報告がありました。



浅香選手団長から「一人ひとり、お互いの障がいをカバーし合い、お互いを気遣い合い、お互いを勇気づけ合い、そして元気を分かち合う、心をつなげた素晴らしい札幌市選手団だったと思いますし、この姿こそが、金メダルに値するものだと思います。」と報告がありました。



団旗の返還

スズポの 伝言板



第17回全国障害者スポーツ大会

えがお 愛顔つなぐえひめ大会 「君は風 いしづちを駆け 瀬戸に舞え」

来年の第17回全国障害者スポーツ大会は、10月28日（土）～10月30日（月）に愛媛県で開催されます。この全国大会に出場するには、「第17回札幌市障がい者スポーツ大会（すずらんピック2017）」に参加する必要があります。来年のすずらんピックは、例年通り5月から6月にかけて開催いたしますので、多くの皆さまが全国大会出場を目指して参加されることを期待しています。



許可番号
28えひめ国体・大会承認
第1-50号



えがお 愛顔つなぐえひめ大会 会場地

開・閉会式会場 …………… 松山市：愛媛県総合運動公園陸上競技場（ニンジニアスタジアム）

個人競技 6競技

陸上競技（身・知） …………… 松山市：愛媛県総合運動公園陸上競技場（ニンジニアスタジアム）

水泳（身・知） …………… 松山市：松山中央公園（アクアパレットまつやま）

卓球（身・知）及び

サウンドテーブルテニス（身） …… 松前町：松前公園体育館、松前総合文化センター

フライングディスク（身・知） …… 西条市：西条市ひうち陸上競技場

ボウリング（知） …………… 松山市：キスケボウル

アーチェリー（身） …………… 今治市：今治市宮窪石文化運動公園

団体競技 7競技

サッカー（知） …………… 松山市：北条スポーツセンター球技場・陸上競技場

バレーボール（身） …………… 伊予市：しおさい公園伊予市民体育館

バレーボール（知） …………… 松山市：愛媛県武道館

バレーボール（精） …………… 八幡浜市：八幡浜市民スポーツセンター

バスケットボール（知） …… 大洲市：大洲市総合体育館

車椅子バスケットボール（身） …… 今治市：今治市宮中央体育館

ソフトボール（知） …………… 松山市：松山中央公園運動広場

グランドソフトボール（身） …… 砥部町：砥部町陶街道ゆとり公園

フットベースボール（知） …… 東温市：東温市総合公園

身：身体障害者が出場できる競技
知：知的障害者が出場できる競技
精：精神障害者が出場できる競技

最後に、報告書の製作にあたり、競技や選手の指導等の合間など、何かとご多忙の中、沢山の写真撮影にご協力いただいた役員の方々と、大会を振り返り、感想を寄稿いただいた選手、役員の方々に心からお礼を申し上げます。



札幌市障がい者スポーツ協会
マスコットキャラクター **スズポ**

「2016希望郷いわて大会」を振り返って



高坂 猛

札幌市障がい者スポーツ協会 理事／札幌バレーボール協会 副会長

視察・応援・観戦記

10月21日いわて花巻空港強風のため着陸できない場合、羽田空港着陸か千歳空港に引き返すという不安な出発であったが、無事着陸。

翌日、青空の下開会式、皇太子殿下のお言葉をいただいたが、当初出席が予定されていた、雅子妃殿下のお姿を観ることができなかった事が残念という多くの選手、関係者の声があった。

競技が始まり、日程・時間の都合上、数種目の視察に限られたがフライングディスク、水泳、卓球、サッカー、陸上等本市選手団は大活躍、いずれも上位入賞を果たした。

私が日頃から携わっている、バレーボール競技は強豪、長崎県と対戦、1セット目序盤、やや緊張のせい、リードを許すも中、後半追い上げたがあと一步のところセットを失う。2セット目相手の強いサーブにレシーブが乱れリードを許す、後半追い上げたが前半の失点が大きく響き、惜しくも敗戦となった。しかし、セッターの巧みなトスワークが光り、今後の成長が楽しみなチームでもある。

各競技を通じて、障害者アスリートたちが自身の可能性に挑戦し大会を盛り上げていると感じます。派遣していただいた、障がい者スポーツ協会、関係者、岩手県の関係者にも感謝申し上げます。



荒木 文生

知的総務 札幌市手をつなぐ育成会事務局長

陸上競技は北上総合運動公園北上陸上競技場を会場に3日間、熱戦が繰り広げられました。結果的に金メダル4個、銀メダル2個、銅メダル7個という素晴らしい成績でした。

札幌から新幹線を使つての長旅による疲れや、東北地方の底冷えがする天候にも屈せず、選手たちは毛布に身を包みながら出番を待ち、これまでの厳しい練習の成果を発揮して、思いきり走り、跳び、投げる姿は感動的でした。

最終日の4×100mリレーでは、大きな声援に応え、見事なバトンさばきで3位となり大会を締めくくりました。札幌選手団のチームワークの良さは健在。皆さん、本当にお疲れさまでした。来年も頑張りましょう！



吉田 彰子

陸上コーチ

第16回全国障害者スポーツ大会に、札幌市選手団陸上コーチとして初めて引率をさせていただきました。大会期間中、寒さと強風にも負けず、選手同士が互いに声を掛け合う姿、そして選手団の皆様の応援が追い風となり、とても素晴らしい環境の中で選手をサポートすることができました。今回の大会を通して、全国のトップ選手との差、自分自身の力不足を感じました。今後もさらに指導と「学ぶこと」に力を入れていき、一人でも多くの選手を東京パラリンピックに輩出できるよう、精進して参ります。

選手並びに役員の皆様、この大会を運営して下さった関係各所の皆様、本当にありがとうございました。



花田 裕芳

陸上選手

この大会選出で今回が4回目ですが、好成績を目指して出場し、また入場行進の看板である旗手の大役を任じられた私にとって良い経験となった大会です。期間中はメンタル部分、体力の保持など調整しましたが、強風低温など悪条件が重なり、初挑戦種目は残念な結果と不完全燃焼の悔しさが残っています。この課題をこれからも私なりに練習に励み欠点を克服したいと思います。この大会において、役員・コーチ・ボランティア等の方々に応援サポートして支えていただき、本当にありがとうございました。今後もチャンスがあれば更に向上できるように頑張りたいと思います。これからもよろしくお祈りします。



佐々木 登耶

陸上選手

大会1日目の800m走はレースプランをコーチと早急に練り、本番に望みました。大体、思った通りのレースが出来、銅メダルでした。大会3日目の1500m走は金メダルでしたがレースの内容としては散々でした。今回のレースで足りない所を強化して次のレースでは今回の反省を活かしたレースをします。

今回の岩手大会は不調続きで試合に向けてのコンディション作りは大変でした。監督やコーチ、ボランティアさんの支えと自分の努力で体調良くレースを行なえ、みんなと楽しく過ごせました。みなさん有り難うございました。そして充実した6日間でした。



小泉 茜

水泳コーチ

10月22日より3日間に渡って開催された第16回全国障害者スポーツ大会希望郷いわて大会。私は水泳競技にコーチとして参加させていただきました。水泳の選手5名は、それぞれに自分のベストを尽くし、メダル9個を獲得、4競技で大会新記録を樹立する好成績をおさめました。更には、自己ベストを更新した選手もあり、大変有意義な大会になったと思います。

競技以外にも、6日間行動を共にした仲間同士、苦手な部分を支え合いながら、お互いに思いやりの気持ちを持って良いチームであったと思います。

岩手県の役員・ボランティアにも支えられ、大変思い出深い大会となりました。



山崎 佳奈子

水泳選手

私は、結団式で選手宣誓をしました。緊張しましたが、無事に宣誓できました。

いわて大会の水泳競技には、多くのパラリンピアンがいました。私は50m自由形で、パラリンピアンと一緒に泳ぎました。こんな機会は滅多に無いため、興奮しました。本当に良い経験になりました。楽しかったです。25m自由形は、少し調子が悪かったけれど、自己ベストを更新できました。2種目とも、大会新記録だったと知った時は、すごく驚きましたし、とても嬉しかったです。

今大会では、岩手県の皆さんだけでなく、水泳チームのみんなにも、たくさん助けてもらいました。どうもありがとうございました。



宮崎 哲

水泳選手

悔しかった思い、そして目標と努力へ

岩手県盛岡市に着いてから翌日、盛岡城跡の神社でお参りした後から盛岡タカヤアリーナで練習しました。新しいフォームにするためのトレーニング中なので、メニューを考えて調整練習を行いました。10月22日の大会1日目は明日からレースが始まるので2回練習を利用しました。

大会2日目は50m自由形、大会3日目は50mバタフライ。結果は2種目とも大会新とベストでしたがライバル（年下の選手）達との差があり更に上がいたので悔しい思いをしました。

この悔しい事を目標に変えて、来年の愛媛で目標タイム突破を目指して努力を尽くします。



森 志歩

ボウリングコーチ

この度、初めてボウリングコーチとして今大会へ参加させて頂きました。スポーツを通じ様々な人が楽しみ、関わり合い、助け合う共生社会のような素敵な大会でとても感動しました。ボウリングの選手も個性の全く違う2人でしたが互いに助け認め合っていました。開催地も震災のあった岩手県ということもあり、現地スタッフの方も大きな被害に遭われて、色々お話を聞いて改めて関わり合いや助け合いの大切さを学ぶことができました。そしてなによりスポーツ大会を通じて関わった方の笑顔がたくさん見ることができ大変勉強になりました。ありがとうございました。



松原 一博

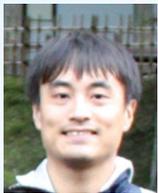
ボウリング選手

ボウリングはスポーツ少年団に入り競技として続けてきましたが、全国大会に出場するのは大変な事なので、すずらんピックをきっかけとして、全国障害者スポーツ大会（希望郷いわて大会）に出場が決まった時は嬉しかったです。

高機能自閉症と、数年前から急性一過性精神障害も加わり、精神安定剤と睡眠剤を常用しています。

結団式から始まり、帰るまで喜怒哀楽が安定しない中で試合と自分の精神状態との戦いでもありました。結果、メダルを頂き、年代別全体を通しての4位になる事ができ、また他府県のボウラー達と仲間になれたことにも感動しました。

来年は仲間を誘って、すずらんピックに参加し、また全国大会を目指したいと思います。



山田 亮太

卓球コーチ

感動と感謝の旅

希望郷いわて大会に、大友一守さん、小野善二郎さん、藤井竜也さんの卓球コーチとして同行させていただきました。道中、皆で卓球を続けてきた日々を振り返り、信頼を深め合い過ごす5日間でした。

強い相手に1ポイントを取ろうと頑張る姿、緊張や不安を乗り越え勝利を挙げた瞬間の笑顔、そして一生懸命に応援する仲間の声…。大会のスローガン「広げよう 感動。伝えよう 感謝。」にあるように、沢山の感動がありました。

札幌の代表選手、コーチの皆様、お世話になった大会ボランティアや宿舎の皆様、かけがえのない経験を私達に与えていただき、本当にありがとうございます。

末筆ながら岩手の、東北の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。



佐藤 照子

卓球選手

10月20日結団式後、札幌駅発スーパー北斗に乗車し、新函館北斗ではやぶさに乗り継ぎ盛岡駅下車。県の実行委員の方が出迎えてくださり、バスに乗り換え各競技場に分れ、私は奥州国民宿舎に到着。翌日公式練習。

22日開会式は皇太子さまがご出席されお祝いの言葉を述べられ感動の式典でした。午後からは各競技が始まり、私たちは卓球会場に移動し、三日間にわたり試合が行われ皆さんの応援でいい成績を残す事が出来ました。これも監督はじめコーチのご指導のお陰です。更にコーチには、手荷物の持ち運びや会場迄車椅子を押して下さいました事に感謝の気持ちでいっぱいです。私にとって心に残る「いわて郷」の大会でした。



藤井 竜也

卓球選手

楽しい旅

10月20日から25日まで、希望郷いわて大会に行ってきました。皆、色々な思いを持っていたと思いますが、真剣に試合に臨みました。

緊張もいつも通りでしたが、何とか1勝する事ができ嬉しかったです。減多に参加することができないと思ったので、参加する事ができて良かったと思います。強い相手と対戦することができて、今後の目標にもなりました。一緒に行ったメンバーも楽しんでいましたし、いい思い出になりました。宿舎での食事もおいしくて、元気が出ました。

一緒に行っていただいたコーチの皆様、ありがとうございました。皆さん結果は個人個人違うと思いますが、良い経験になったと思います。



佐々木 祐司

フライングディスクコーチ

今回、札幌市のフライングディスクチームは、3名の選手さんとコーチである私との4人体制にて大会に参加してきました。期間中は天候にも恵まれ、岩手県の運営スタッフの皆さんの素晴らしい仕事ぶりもあり、選手たちも

心おきなく競技に集中させてもらうことができました。加えて、チームに帯同して頂いた県庁職員の小林さん、学生ボランティアの小野寺さん、早坂さんには本当に心細やかなサポートをして頂き、そこで生まれた交流もメンバー全員にとってかけがえのない思い出となりました。私個人としましても、こうした全国大会は初めての経験であり、コーチとしての技量も全く心許ないものでしたが、今回、全国規模でこの競技に取り組む選手、コーチの方々の姿を目のあたりにしたことで、改めてその奥深さ、面白みを体感させてもらいました。本当にありがとうございました。



樺沢 正

フライングディスク選手

今回、久しぶりに全国大会に出場しました。岩手県はこれまでの場所にくらべると、競技の出番を待っている間、寒く感じました。でも、今回はボランティアの人たちと一緒に時間が長く、たくさんお話をすることができました。

あと、チームのメンバー同士で試合の前の日の晩ごはんの時に作戦などについて話し合うことができて、とても良かったです。アキュラシーでは1枚だけ外してしまい2位でした。全部入れて優勝したかったです。はやぶさ26号に乗れたことと、閉会式でAKBを見られたことも思い出になりました。今回の経験をいかして来年のすずらんピックでは良い成績を残すことができれば、また全国大会に出たいと思っています。



後藤 宗夫

アーチェリー選手

岩手山を臨む素晴らしい射場での大一番、力の限り頑張りましたが、あと一步及ばず、4位に終わりました。一本のミスから射形が狂い始めてしまいました。倉知コーチより「相手もミスがあるから気にしないように」とご指摘いただくも、風の影響もあって体が微妙にブレてしまい、最後まで良い射形ができませんでした。メンタルの弱さが出てしまったようです。

空き時間には堺市より来られた選手の方と一緒に観光をしました。岩手山の紅葉が美しく、最高の景色でした。

今回の遠征をサポートしていただいた菅原さんと新沼さんのお二人には深く感謝しております。気候は寒かったが、岩手県民の心の暖かさを感じられた楽しい遠征でした。



北川 孝博

バレーボール監督

一昨年の長崎大会から2年。5月の東北予選大会で青森県を下し、あの岩手の地で代表の名に恥じないようコートで存分に躍動することを誓って臨みました。

対戦した長崎県や鳥取県を相手に、日頃の練習で鍛えた光るプレーを随所に発揮しました。健闘むなしく、試合ペースを引き込むことができぬままセット終了のボールがコートに落ちましたが、最後まで諦めずひたむきに粘りを見せることができ、決して悔いはありません。

今大会を振り返り、この経験や悔しさを糧に今後もバレーボールを楽しみながら精進していきます。大会出場に際して支えて頂いたすべての方々に感謝し、また新たな目標を胸に練習に励んでまいります。



山形 亜未

バレーボールコーチ

札幌市聴覚障害男子バレーボールのコーチとして全国障害者スポーツ大会に参加しました。1回戦は長崎県で、2年前の大会で負けており、リベンジで今年「勝つ!」と気持ちで挑みました。しかし、残念ながら勝利に届かず、1回戦敗退となりました。「粘り強くボールを拾う」という目標をもって臨みましたが、メダルを獲得することができず、選手と共に悔しい気持ちでいっぱいでした。その後、交流戦があり、地元の岩手県とあたり、応援の雰囲気にも吞まれそうになりながらもストレート勝ちしました。交流戦2回戦は鳥取県で、レシーブの粘りで好プレーしたが、惜しくも敗戦となりました。このまま終わらせないように、バックアップして、次に繋げていきたいと思っています。



岡田 裕樹

サッカーコーチ

私は昨年に続き、二回目の参加となりました。昨年は決勝で東京都に敗れ、準優勝という結果でしたが、結果以上に得る事の多い大会であるというのが強く印象に残りました。

今回の大会へ向けては、昨年の雪辱を果たす事を競技目標に据え、それ以上に何を成す事ができるのかを大会参加への大きな目標として、一年間取り組んできました。

結果は昨年と同様の準優勝ではありましたが、大会が終わった後の選手達の様子は、大きな悔しさと共に、それ以上の充実感を得ているように見えました。そこには、この一年間のサッカーへの取り組み、そして、多くの支えや協力があったからこそだという事を念頭に置いて参加できたからだと感じています。



國吉 拓夢

サッカー選手

僕は二回目の大会参加となりました。昨年の国体は、骨折をして参加する事は出来ませんでした。今年は頑張ってメンバーになる事ができました。自分の中では、もっと動けたんじゃないかと思いました。でも、今までの試合よりも決勝が一番楽しかったです。

僕は、この大会ではスタメンではなくリザーブでした。最初はとても悔しかったけど、リザーブだからと言ってたんだ気持ちではなく、いつでも試合に出れる準備はちゃんとしていたし、試合に出ている仲間と一緒に勝ちに行くぞという気持ちで準備をしました。

来年も国体メンバーに選ばれたら、この悔しさを力に変えて、今度こそ優勝を目指して頑張ります。



上村 純樹

介助員 札幌市障がい福祉課

私は希望郷いわて大会に介助員として同行させていただきました。このような大会に参加した経験がないため、不安がありましたが、選手・役員の皆さんは明るくて、元気な方ばかりで楽しみながら大会期間を過ごすことができました。また、サポートする側であるにもかかわらず、選手の皆さんが一生懸命に競技に取り組み、活躍する姿を見て、元氣と感動をいただきました。このような機会を与えていただいたことに感謝しています。非常に寒いなか、大変だったかと思いますが、選手の皆さま、役員の皆さま、応援に来られた保護者の皆さま大変お疲れさまでした。